

新・神戸文化ホール整備基本計画（案）の改定について

新型コロナウイルスの出現により、文化芸術活動も様々な活動が制限されるなど、大きな影響が及んでいる。

特に文化芸術を支えるアーティストや劇場スタッフなどは、活躍の場を失っており、緊急的な支援とともに、post コロナ時代にも神戸の文化芸術がしっかりと根付いた状態であるためには、その支援や関係者の活躍の場を確保する取り組みが必要となっている。

また、舞台芸術、とりわけ音楽に関しては、無観客公演での動画配信の普及や、屋外など様々な場所での演奏など、その提供のあり方も多様化している。

ホールの配置計画は、回遊性や人の流れを創出することを考慮し、音楽ホールの整備も検討してきたが、例えば、臨港地区では大規模多目的アリーナを始めとする、新たなにぎわい・集客施設が順次整備されるなど、三宮からウォーターフロントへの新しい人の流れが生み出される予定となってきた。

これら様々な状況の変化に対応していくため、新・神戸文化ホール整備基本計画（案）の改定を図ることとした。

○改定の概要

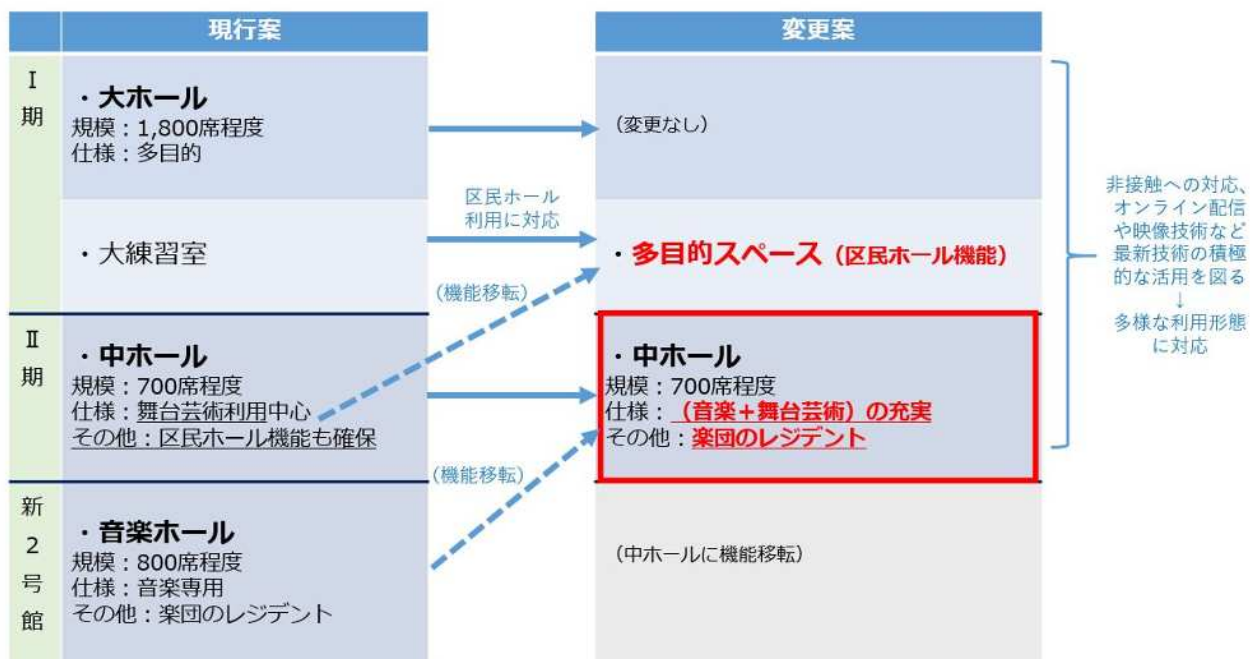
- ・雲井通5・6丁目地区再整備（Ⅰ期）の大ホールには、大練習場を兼ねて、発表の場や集会などの利用にも対応する多目的スペースを整備する。
- ・本庁舎2号館再整備において計画していた音楽ホール専用としての整備を見直し、雲井通5・6丁目地区再整備（Ⅱ期）の中ホールの機能を、舞台芸術利用から本格的な音楽利用にも対応し、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能を有するよう計画を変更する。

見直しによる財政効果は、文化芸術施設・関係者に対する緊急支援策や、今後、神戸に根付かせていくための新たな事業を含めた文化振興策、ホールの機能向上に活用する。また、緊急コロナ対策・財政健全化のために活用する。

①配置計画



②施設計画



③整備スケジュール (予定)

各ホールの整備時期については、以下の事業に準じて進めることとする。

機 能	関連事業名	完成時期 (予定)
大ホール (多目的スペース含む)	雲井通 5・6 丁目地区再整備事業 (I 期：雲井通 5 丁目地区)	2026 年度以降
中ホール	雲井通 5・6 丁目地区再整備事業 (II 期：雲井通 6 丁目北地区)	2030 年度以降

④概算事業費・延床面積

大ホール 事業費：約 350 億円 延床面積：約 25,000 m²

※中ホールについては、雲井通 5・6 丁目地区再整備事業 (II 期) の進捗により算出し、公表する。